



4.4.25

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

医療法人 葦の会	代表者	仲宗根 哲也	法人・事業所の特徴	「はれる家では自宅のような雰囲気です。自分らしく生活することを支援できるよう心がけます。体操やレクなど一人一人の得意分野を活かしながら、また、一息つきたくなったら広いウッドデッキでのんびりしたり、広い庭（畑）で花や野菜を植え、成長していく過程を毎日楽しみに眺め、ときには野菜を収穫し調理していただくなど、その日がとても楽しく過ごせるように、また、だれもが主体的になれるような環境作りを行っている。
事業所名 小規模多機能ホーム はれる家	管理者	嶺井 宏治		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	12人	0人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	職員から意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	運営推進会議や事業所評価を記入する際、第三者にも伝わりやすいように、抽象的ではなく具体的に記入する。	他者からのアドバイスもあり、少しずつではあるが具体的に記入出来てきている。	いつまでになど数字で記入したほうが、より具体的になると思う。	事業所評価や資料を作成する際、第三者にも伝わりやすいように、数字を用いて具体的に記入する。
B. 事業所のしつらえ・環境	職員で花壇の手入れをする担当を決めて、個別支援に花壇の手入れを組み込み、利用者様と一緒に環境整備を行っていく。	担当者を決めて、利用者様と一緒にプランターに花や野菜を植え水かけを行うが、花壇や庭までは手入れ出来なかった。	利用者様が花や野菜を気にかけて、花が咲いたときは綺麗だねと話されていた。花壇や庭も手入れ出来たら良いのに。	環境整備の担当を二名決め、花壇や庭に花や野菜を植え、利用者様と一緒に手入れを行う。
C. 事業所と地域のかかわり	包括支援センターや社協、民生委員等と協力し、はれる家で出来ることは何かを考え参加、協力する。	コロナ禍で民生委員との交流は出来なかったが、包括支援センターと利用者様への支援の話し合いや社協へ毎月1回出向き食糧支援を行っている。	大変だと思うけど、食糧支援は継続したい。	継続して、包括支援センターや社協、民生委員等と協力し、はれる家で出来る子は何かを考え参加、協力する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	iPadなどを活用し、メールや動画などで、利用者様の状態や活動等をご家族、主治医、訪問看護等へ情報提供が出来るようにする。	発赤や打撲痕、ビラン等をiPadで撮影し、ご家族や主治医、訪問看護等へ情報提供行い共有できている。	iPadで撮影し残すことで経過が分かり易くていいね。iPadだと写真が送れるので、説明や情報の共有がしやすい。	継続して、iPadを活用し、利用者様の状態や活動等をご家族、主治医、訪問看護等へ情報提供行い共有する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	今後も職員での運営推進会議を行い、全職員で振り返りを行い、課題に取り組む。	全職員で苦情やアクシデントを共有し対策に取り組む事が出来て、振り返り評価を行っている。	みんなで話し合うことで、多くの意見が聴けるので良いと思う。みんなで話し合うので共有しやすい。	運営推進鍵で出た意見や課題を全職員が共有できるよう毎月のミーティングで話し合い、はれる家の運営に活かしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	石嶺まちづくり協議会や子供育成部会等と協力しながら、地域での災害訓練が実施できるよう、話し合いへ参加、参画する。	石嶺まちづくり協議会と子供育成部会主催の地域での災害勉強会へ2回参加して、石嶺ではどのような災害が起こるかを学んだ。	毎年、地域での災害訓練の話は出るけど実施したこと無いよね。	石嶺まちづくり協議会や子供育成部会等と協力しながら、地域での災害訓練や勉強会が実施できるよう、話し合いへ参加、参画する。